

3.12^(土) & 13^(日) 一般社団法人 壁なき演劇センター
／演劇集団 ア・ラ・プラス

3年目突入!

演劇集団 ア・ラ・プラス <日本・セルビア演劇交流プロジェクト> 関連企画
セルビア戯曲リーディング

ビザール BIZARNO

～奇妙な午後～ [本・邦・初・訳]

ジェーリコ・フバッチ⁽¹⁹⁶⁷⁻⁾/作

*この作品には暴力シーンや性的な表現が含まれます。予めご了承ください。

[翻訳] 高橋 ブランカ
[演出] 杉山 剛志 (ア・ラ・プラス)
[美術] 加藤 ちか
[照明] 大村 真一

[出演]

^{チェ} 蔡 ^{ヘミ} 恵美 (ア・ラ・プラス)

鳥越 さやか (Art Loving)

江前 陽平

廣畑 達也

山田 隆史



《リーディングの後、トークイベントを開催します》

『ビザール』翻訳 『バルカンのスパイ』翻訳 演劇評論
高橋ブランカ × 亀田和明 × 七字英輔

*12日18時の回にはトークイベントなし

[日時] 2016年3月12日(土) 13時/18時

3月13日(日) 19時

[会場] 12日: Studio 543 (初台別館)

13日: 富士見市文化会館 きらり☆ふじみ内

[参加費] 1000円

[お申込・お問合せ]

壁なき演劇センター ☒ tcww.contact@gmail.com

件名を「セルビアリーディング」として、お名前(ふりがなつき)、連絡のつきやすい電話番号、メールアドレス、参加人数をお知らせください。(制作: 後藤)

【後援】セルビア共和国大使館

富士見市、富士見市教育委員会

【協力】日本・セルビア協会 (申請中)

5人の俳優による15人の登場人物の繰り広げる超現実的奇譚——

セルビアに生まれ、80年代のユーゴスラビアを生き抜いた青年たちのその後とは？

虚実錯綜するセルビアン☆ブラック・ヒューマン・ドラマ！ 乞うご期待。

1980年代、チトー政権下のセルビアで「青春時代」を
過ごした若者がユーゴスラビア紛争（1991-99）を
迎え、それぞれの人生にとって決定的な経験をする。

戦争に行った男、行かなかった男、西側からの出戻り…
こうしてばらばらになった若者たちが、内戦をひきずっ
たまま、ある秋の昼下がり、ノヴィ・ベオグラード（新
ベオグラード）で出会う。

38歳、32歳、25歳の5人の男女による短編トリロジー。
15人の登場人物はすれ違いながらそれぞれの物語を生
き、やがて3つの物語は交錯していく…。

大胆な設定で紛争後のセルビアの「リアル」を描く
セルビア国立劇場一押しの作品。

ジェーリコ・フバッチ Željko Hubač (作家)

1967年トウズラ（ボスニア・ヘルツェゴビナ第三の都市）生まれ。
ゼニツァ（ボスニア・ヘルツェゴビナ）とレスコヴァツ（セルビア）
で育ち、高校と音楽学校を卒業。その後、エンジニアとして働く傍
ら理工学部物理学科で学ぶ。92年、セルビア・ベオグラードへ移り、
演劇学部でドラマトウルクを修める（96年卒業）。

執筆した戯曲はセルビア（ベオグラード、ノヴィサド、ニシュ、クル
シェバツ、シャバツ、ウジツェ、レスコヴァツ、ズレニャニン、キキン
ダ）やブルガリア（プロヴディフ、クルジャリ、ヴィディン）、そして
ボスニア・ヘルツェゴビナ（ゼニツァ）の劇場で上演され、英語、
独語、露語、ブルガリア語にも翻訳されている。テレビ・ショーや
テレビドラマも数多く手掛ける。

また、劇評を通じたジャーナリズム活動を行っており、過去には日
刊紙「ダナスDanas」への連載やRadio Free Europeの通信員、
Helsinki Charter（ベオグラードにある人権保護団体のヘルシンキ
支部）のメンバー、セルビア演劇人協会が発行する演劇誌「ルード
ウスLudus」執筆者として活躍。現在、ベオグラード国立劇場の発
行する「劇場新聞」および「プレミエ・プラス」の編集長を務めて
いる。

ノヴィサド国立劇場のドラマトウルク、セルビア演劇博物館発行の
「テアトロン」誌編集を経て、現在、ベオグラード国立劇場勤務。

高橋ブランカ（翻訳）

1970年セルビア（旧ユーゴスラビア）生まれ。作家（主に詩や短
編小説）、翻訳家、写真家。93年ベオグラード大学言語学部日本
語学科卒。95年来日し、98年、日本に帰化。98年から09年
まで家族の転勤の関係でベラルーシ、ドイツ、ロシアに住み、以
降東京在住。

演劇集団ア・ラ・プラスと壁なき演劇センター

★ピーター・ブルックの演出助手として「国際演劇創造センター」
で活動したワグダウカの演劇教室とともに学び、ワグダウカ率いる「21
世紀演劇行動社」でヨーロッパ各国の演出家と様々な作品を手が
けた杉山剛志と蔡恵美が「演劇集団ア・ラ・プラス」を結成（2004
年）。東京を拠点に創作活動を行い、フランスやセルビアでの公演
のほか、2014年よりアジアの子どもたちを対象に、演劇を通じた
教育プログラムを行っている（助成：国際交流基金アジアセンター）。

★上演作品は J.P.サルトル、レジナルド・ローズ、岸田國士、ニ
ール・サイモン、エドワード・オールビー、清水邦夫、アレクサ
ンドル・ゲーリマン、ウジェーヌ・イヨネスコ、ニコライ・ゴー
ゴリ、ダリオ・フォ、そしてドゥシャン・コバチェビッチなど幅
広い。

★セルビアの国民的映画／舞台作品であるドゥシャン・コバチェ
ビッチ『バルカンのスパイ』（翻訳：亀田和明）上演を機に、セル
ビアの演劇人との交流も深まり、セルビア作品の紹介にも力を入
れている。

★平成27年、かねてより交流のあった宗重博之（プロデュース）、
加藤ちか（舞台美術）、後藤絢子（字幕、翻訳、制作）とともに一般
社団法人 壁なき演劇センターを設立。

杉山剛志（演出）

1974年生まれ。5年間の体系的な俳優教育を受けた後、演出家と
して活動する。ロシア国立モスソヴィエト記念劇場（モスクワ）で
の演出助手も多数。

演劇集団ア・ラ・プラスのほぼすべての作品を演出するほか、
劇団黒テントではエーヴァルト・パルメツホーファーやマイク・
パートレットの作品（リーディング公演）、国際演劇協会日本セン
ターではイエスシアター（パレスチナ）の作品（リーディング公演）
を演出。その他、チャーホフやスタニスラフスキーをめぐるレク
チャー、ワークショップ講師など。

チェーミ 蔡恵美（俳優）

ジャンルを問わず一人芝居から群像劇まで様々な役を演じる。
多文化に触れる事が好きで頻りに海外を旅している。「利賀演劇人
コンクール 2011」で優秀演劇人賞受賞。パリ在住時には主に映画
に出演。

会場へのアクセス

3/12 Studio 543（初台別館）

（住所）渋谷区本町2-1-1 島山ビルB1F
（アクセス）京王新線初台駅東口徒歩3分
（新国立劇場そば、デニース前）

*詳しくはホームページをご覧ください。
http://studio543.main.jp/99_blank004050.html

3/13 キラリ☆ふじみ



（住所）埼玉県富士見市大字
鶴馬 1803-1

（アクセス）
東武東上線「鶴瀬」駅東口より
・徒歩 25分
・バス 10分（下車後徒歩すぐ）

*詳しくはホームページを
ご覧ください。
[http://www.kirari-fujimi.com/
access/index.html](http://www.kirari-fujimi.com/access/index.html)